

外に広がるフリーペーパー制作活動

武蔵野大学文学部日本文学文化学科
日文特別ゼミ IV 渡部怜桃
武井玲奈
長田千弘

1. 日文特別ゼミ IV について

この授業は、武蔵野大学文学部日本文学文化学科の3年生を対象としたもので、一から雑誌づくりを体験する通年ゼミである。企画内容の検討から、取材・記事の執筆、編集・レイアウト、データ入稿までを自分たち自身で行う。

制作する冊子の仕様は、A5判中綴じ、表紙・本文ともカラー印刷。当初総ページ数は特に決めず、48ページ前後(とりあえず4の倍数になっていればいい)とした。

昨年4月からスタートした冊子制作は、12月末にデータ入稿、本年1月に印刷・製本された完成品が届き、それを大学内外に配布した。

2. 履修生について

今年度の履修生は、渡部怜桃、武井玲奈、長田千弘の3名。全員が同じ日本文学文化学科に所属しているが、通常ゼミではそれぞれが異なる分野を学んでいる。3人とも編集者や本作りに興味があることから、この授業を履修した。

3. フリーペーパー制作の過程

(1) 企画会議

一人につき企画案を10本考えてホワイトボードに書き出し、その中からテーマを選択した。この際に雑誌名や出版社(者)名、編集長などの役職も決めていった。

特集は「武蔵野大学100周年に向けて」に決定し、その他の単発記事も掲載候補としてリストアップした。

テーマの背景や目的

- ・武蔵野大学が来年100周年を迎える節目というタイミングであるため、多くの人に改めて大学のことを知ってもらいたい。
- ・コロナ禍で学生とのつながりが希薄になった今だからこそ学内外問わず、頑張る学生や大学などを取材し、記事にすることで、読者に勇気や刺激を与えたい。

(2) 取材

企画案から取材先を決め、近隣の大学や採り上げたいお店など、一人一人が取材先にコンタクトを取り、取材許可や撮影許可をいただいたり、資料の提供をお願いしていった。実際に足を運んでの取材や、Zoomなどを使ったオンライン上での取材などを行った。

(3) 担当決め

記事のラインナップが固まったところで、誰がどの記事を担当し、編集・デザインをするかについての役割を決めた。

この演習は、記事の執筆者とその記事を編集・レイアウトする担当者が別であるため、執筆者は自分の原稿を担当編集者に託し、同時に他のメンバーが書いた原稿を受け取って編集・デザインを担当する。このように、すべての履修生が著者役と編集者役の両方を体験しつつ、メンバー間でコミュニケーションを取りながら一つ一つの記事を作成していくことになる。

(4) 執筆

記事はインタビューやコラム、お店紹介から大学の年表まで、幅広いジャンルにわたり、一人につき約6本の記事を担当することになった。各人の記事が出来上がり次第、担当編集者へと受け渡していった。

(5) 編集・デザイン

執筆者から渡された記事を読み、レイアウトやデザインを考えて、Adobe InDesign や Photoshop などを使用して編集・デザインした。できたゲラを指導教員の上田宙がチェックし、アドバイスをもらい修正する、を繰り返し、ある程度形がまとまった時点で取材先にもチェックをしてもらった。

各記事のページ数がわかった時点で台割を確認、表1から表4まででちょうど48ページとなった。

(6) データ入稿

各人が作った InDesign データをつなげて一つにまとめ、最終チェックを行ったが、その際にたくさんのミスが見つかり、授業時間から3時間ほど過ぎたところでやっと入稿用の PDF データが完成した。

ネット印刷通販を利用し、オンラインで印刷・製本を発注した。事前に印刷サンプルを取り寄せ、どんな紙質・厚さが合うかを相談して選んだ。印刷はトナーを使ったオンデマンド印刷となった。

4. フリーペーパー配布

合計160部ほどができたので、それを取材先やお世話になった方に献本。残りを近隣の書店や大学図書館などを回って置いていただいた。

5. まとめ

(1) 制作過程において遭遇した問題や課題

渡部

- ・記事のレイアウトを考えるのがとても難しく感じた。自分の担当記事に似ているよう

な雑誌を沢山読んで、写真の向きや場所、文字のフォントなど、一つ一つの材料を決めていくのは大変でもあり、楽しくもあった。

- ・ InDesign に慣れることが一番大変だった。頭で浮かんでいる記事のデザインにするためにはどの機能を使用すればいいのか、何度も先生に聞き、一つずつ教えていただいた。

武井

- ・ 個人的には編集者と執筆者のやり取りの大変さを体感した。意思疎通がうまくできなかったり、タスクが多くてぬけが出てしまったりしたことが反省点でもあり苦労したこと。
- ・ 今回 POLA さんの記事やすごい人企画など第三者へのインタビュー記事が多く、著者とインタビュー対象者両方へコンタクトを取りながら行う大変さを知りました。

長田

- ・ 初めての取材だったので、内容構成を修正しながら話を聞き出すということが難しかった。書き起こす際にここを深掘りしておけばよかったと何度も反省した。
- ・ 取材したり仕入れた文章のどこを使うか、どこを使わないかやデザインのばあいこの色でいいのかなど悩むことが多く、タイムスケジュールに合わせられなくなってしまった。

(2) 得られた知識・感想

渡部

- ・ この講義で一つのを完成させることの達成感を得られた。三人という少ない人数でもこんなに内容が盛りだくさんのフリーペーパーを作ることができたのが、とてもうれしい。他の人の記事の編集をしたり、私の記事を編集してもらったりと、いろいろなアイデアに触れることができ、視点を広げることができた。企画会議から始まって、取材や執筆、編集など初めてのことがたくさんあったが、「0 から 1 を生み出す」ことができるスキルも磨くことができたのではと思う。

武井

- ・ 熱意をもって行動し続けることの大切さを学びました。今回 POLA さんの企画では私が広告コピーにまつわる記事を書きたい！という強い思いから企画書を提出したところ、ご協力頂き本企画が実現しました。このことから、無理かもと諦めずに熱意をもってやってみるものの大切さを学びました。

長田

- ・ 100周年記事作成にあたって大学発行の全ての新聞に目を通したり、大学史の本を読んだり、大学について誰よりも詳しくなった。大学一年から三年までほとんど通学せず、大学のことを何も知らなかった私が、知識を与えられるだけでなく、100年間の歴史を知りに行く経験を得られたことはなによりの学びになった。